

インドゾウにおける自動給餌器の導入と効果検証

岡崎孝樹¹, 栗原幹尚¹, 古田洋¹, 大浦敦史¹, 矢口茜¹, 船藤史¹, 金澤朋子²
¹よこはま動物園, ²日本大学 生物資源科学部

当園ではインドゾウの雌雄各 1 頭を飼育しており、従来は雄を準間接飼育、雌を直接飼育で飼育管理していたが、安全面等を考慮して 2022 年度から準間接飼育に統一した。飼育方法の変更により給餌方法を見直す必要性が生じたこと、動物福祉や展示効果向上への活用が図れることから、2022 年 3 月 29 日に自動給餌器を設置した。

給餌方法の変更が日中の行動に与える影響を検証するため、自動給餌器設置前後の行動観察を行い、行動割合や空間利用率を χ^2 検定を用いて解析したところ、どちらも有意な差が見られた。また、各項目でマンホイットニーの U 検定を用いて有意差の検証をしたところ、「操作」の項目と自動給餌器を設置した区画の利用率において有意な差が見られた。

以上のことから自動給餌器の設置と給餌方法の変更は日中の行動と空間利用に変化を与えたことが示唆された。今後は自動給餌器をより効果的に活用できるように試行錯誤していく。